

栄光

説教・	
「栄光を見た」	
松谷祐二牧師…1	
特集・	
旅の思い出……	2
東京教区総会	
報告……………	3
長老のファイル…	3
牧師の寄り道…	4

説教

『栄光を見た』

出エジプト記40章34節～38節

ヨハネによる福音書1章14節～15節

松谷祐二

私たち人間の世界で一般に「栄光」と言えば、努力し、戦い、優勝して掴み取るもの。しかし、聖書での「栄光」とは、多くの場合、「神の栄光」です。神の力、卓越性、素晴らしさ。それらが輝き出るようにして現れたもの。神を直接見ることはできない私たちが、神の栄光を見て「ああ、ここに神がおいでになる」と知ることができる、言わば手がかりです。

旧約聖書では、神の栄光は時々、燃える火、光り輝く雲など、見える形で描き出されます。出エジプト記40章の最後もそうです。

エジプトでの奴隷状態から、神によって救出された昔のイスラエルの人々。約束の地を目指して旅

立ちます。ところがすぐに墮落し

て神に背き、一時は神から見限られそうになりました。しかし神は最終的に、この反抗的な民の罪を赦し、彼らの中にあつて導き上ることを決断されます。神の指示どおりに「幕屋」が作られ完成すると、「主の栄光」が幕屋に満ちました。神が幕屋を張って、民の間に共に住んでくださったのです。

ヨハネによる福音書1章14節、「私たちはその栄光を見た」。どんな「栄光」を見たのでしょうか。光り輝く雲でしょうか。いいえ、「言は肉となつて、私たちの間に宿つた」のを見たのです。

「言」とは、私たちの主イエス・キリストです。神と共に天地万物

を、私たちを創造された「神の言」です。一方、「肉」、「肉なるもの」とは、弱い被造物のことです。

「言は肉となつた」。天地万物を創りだす力ある「神の言」が、無力で有限な「肉なるもの」——人となつた。いまだかつてなかったこと、その必然性もないことです。しかし、事実、そうなるしまわれたのがイエス様でした。

言は肉となり、そして「私たちの間に宿つた」。この「宿つた」とは、「幕屋を張つた」という意味です。あの出エジプト記の最後の場面のように。不信仰で反抗してばかりの民を神がなおも赦して、彼らの中においでになつたように。

「私たちはその栄光を見た」。神の言でありながら肉なるもの、弱い人間となつてしまわれ、そうして、私たちの間に幕屋を張るようにしてとどまられたイエス・キリストに、栄光を見たのです。

「私たち」は見ました。イエス・キリストを、その生涯を、人々から受けた無理解と蔑みを、十字架の死を。それにもかかわらず、その、肉なるものの弱さを極められたイエス・キリストを通して、初

めて成つた「永遠の命」を、彼らは見ました。イエス・キリストをじつと見つめ続け、信仰の目で見、肉となつた神の言に栄光を見た人々が、証言したのです。「私たちは、この方にこそ、神の栄光を見た。この方を通してこそ、神のことがわかるのだ」と。「私たちは見た。あなたがたにも見てほしい」、「私たちは信じた。あなたがたにも信じてほしい」と。

「私は」ではなく、「私たちは」その栄光を見た、です。一人ではなく、仲間たちが一緒になつて、声をそろえて「この人を見なさい!」と叫んでいます。この証言によって信じる人々が生まれ、その人々がまた、仲間たちと一緒になつて、「私たちはその栄光を見た」と証言し、……この証言の連鎖によって、私たち一人ひとりにも、その声が届くに至りました。どこに栄光が見えるか、今や私たちにもわかります。私たちも、福音書を書いた人々の仲間です。私たちも、声を大にして言いましう。「言葉は肉となつて、私たちの間に宿つた。私たちはその栄光を見た」と。

(6月1日)

特 集

旅の思い出

夏は旅の季節でもありますね。印象に残った旅の思い出について書いていただきました。

初めてのホリデイ

宇佐見泰子

夫の仕事上、シドニー、ロンドン、ニューヨークで15年間生活しました。息子たちも各々海外駐在が長くそこを起点にたくさん旅をすることが出来ました。さて旅の思い出と言われると、はて？と迷ってしまいます。全て楽しい思い出です。となるとやはり初めての経験の思い出となるでしょうか。

1963年のシドニーの時です。現地の人とはたつぷりお休みを取る中やつと3日間のホリデイになりスリーシスターズの山の中のホテルを決めました。格調高い建物に若い二人はびびってしまいます。おそろおそろ足を入れロビーを見渡すとそこは短パンにサンダル履きの人々がガヤガヤ騒がしく大きな笑い声が響きます。なんだこん

な所かとほっと一安心です。さて夕食になりました。昼間の賑やかな気が一変し男性は黒いスーツ、女性は耳も首もジャラジャラとアークセサリー。ワンピース姿で飛び回っていた男の子たちも七三分に櫛目を入れ、ネクタイに背広。女の子たちはパツと広がったスカートのバッグ。全員がそうなのです。見たこともない若い東洋人が旅行着のまま入って来たのでじろりと見られてしまいます。ホテル側が「ネクタイ貸しましょうか？」

「いいえ……」

仕方なく2人で狭い部屋に運ばれてきたディナーをひっそりいただきました。これが私の記憶に残る旅の1ページです。

TPOの知識も乏しく海外生活したての私たちには苦いですが貴重な体験でした。若い時の経験は遠のくどころか折に触れふつふつと浮かび上がり、この上なく懐かしく愛しく思い出されます。これは年寄りの特徴だそうです。

つれづれなるままに

大友隼子

毎年、夏休みは、太郎と麻子を通して夫の両親のところで過ごすことになっていました。家事は私がして、お風呂は一番最後のしまい湯です。

太郎が小学3年生の夏は、当時宮崎に住んでいた義両親のところで過ごし、帰りに少し羽を伸ばしたいと、一泊青島グランドホテルに宿を取りました。夜中に太郎と屋上へ行ってベルセウス座流星群を観ました。本当に星が降るように流れてくるのを、感動しながら1時間くらい見上げていました。幼稚園児だった麻子はぐっすり眠っていました。

次の朝は、お櫃の中の残りご飯をおにぎりにして、青島を散策したり、名所・鬼の洗濯板（岩場の

潮だまり）で小さな海の生き物たちを見つけて遊びました。麻子は浅瀬で遊んでいる時に波にさらわれ海水を飲み、溺れかけて慌てました。楽しい楽しい1日でした。

太郎はそれ以降、同級生と天文部を作り、望遠鏡で星の観測。私も土星の輪がくつきりと見えるのにワクワクしていました。

翌々年の夏は、札幌に住んでいた姉のところで2週間くらい過ごし、北海道の自然を楽しみました。獲れたての魚や若布を市場で買ってきて刺身にしたたり、若布はお味噌汁に入れると鮮やかな緑色になって美味しくいただきました。朝は犬の散歩から始まり、東京では味わえない夏休みでした。

あと、楽しかった旅は、三崎の釣り宿で、夫と子ども2人と姪を連れて過ごした夏休み。当時は食が細かった姪が太って帰ってきたと、近所に住む8歳上の姉が喜んでくれました。

旅ではないのですが、夫と乗合いの釣り船に乗って、鰻や鰭やシイラ、あいなめなどを釣って、家で料理したり、ご近所へ届けたりましたのも、楽しい思い出です。

東京教区総会報告

去る5月27日に富士見町教会で第85回定期教区総会が開催されました。私は常置委員として会場整理委員の招集者に指名されていたこともあり、会場の整理業務に当たっていた会場内にずっといたわけではありませんが、特段の混乱もなく落ち着いた議論と進行で行われたようで、感謝です。そもそも会場整理委員が置かれたのは、かつて総会が混乱していた頃、体を張って混乱を實力阻止するためであったということで、今回の実際の奉仕が会場の座席への誘導、マイクの調整、空調管理など、のんびりしたもので気楽に奉仕に当たれたことは幸いです。

教区は、教会的機能及び教務を遂行するために教団が置く、諸教会の地域共同体です。東京教区はその規模の大きさから5つの支区を置き（経堂北教会は西南支区に属します）、支区交付金をもって教務の一部を支区に委任する形になっています。84期常置委員会では、教区資金からの経常会計への繰入れが常態化していることで、この

ままではいけば教区財政は5年後には破綻してしまうという財務・予算の危機感があり、五支区長の陪席を得て臨時常置委員会を開催して、支区交付金の減額を決定し総会に予算案として提案しました。この予算案が今総会で無事承認されました。会員の高齢化や減少への対応など色々課題はありますが、改めて地域に立つ教会として立ち続け、福音を宣べ伝えることを私たち一人ひとりが意識していくことが大切なのだと感じました。

総会では三役選挙が行われ、教区議長として柿ノ木坂教会の渡邊義彦牧師が、副議長として三軒茶屋教会の伊藤英志牧師がそれぞれ再選され、書記として葉田台教会の原田裕子牧師が新たに選出されました。法定議案は全て承認されました。法定議案は全て承認され、常置委員の半数改選の選挙も行われました。私自身は改選議員でしたが再選され、もう2年常置委員として奉仕することになりました。この任にあたるにふさわしい者とはとても思えないのですが神様の召しと受け止めて務めていきたいと思えます。宜しくお願います。

（大友太郎）

長老のファイル

経堂北教会にとって歴史的な牧師交代から3ヶ月が経ちました。4月の第1週の日曜日から松谷祐二牧師ご一家歓迎会、第2週は松谷先生を迎えての初の長老会、第3週はイースター礼拝、第4週は定期教会総会、5月第1週は松谷牧師就任式と、松谷牧師が経堂北教会へ赴任してから目まぐるしく重要な行事が続き、松谷先生ご自身も、準備に携わる長老もとても忙しい日々を過ごしました。松谷先生は経堂北教会の牧会に関わる全てを引き継ぎながら、前任教会である麻布南部坂教会の牧師職並びに附属幼稚園長業務の引き継ぎを同時に行うという、睡眠もままならない時間を過ごされました。そのような状況の中、経堂北教会の牧師、長老、信徒が一つとなつて滞りなく毎週礼拝が行えることは感謝に堪えません。

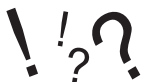
岸牧師が長い年月をかけて構築してきた牧会の方法、特に牧師が担っていた細かな事務作業を引き継ぐことはとても大変です。一つ

の例として『栄光』の発行があります。岸牧師在任中は編集作業を栄光編集委員会が担い、原稿依頼から原稿の取りまとめ、データ管理、印刷、HPへのアップは岸牧師が担って発行する形を取っていましたが、現時点では栄光編集委員会が印刷以外の行程を担って毎月の発行を維持しています。また教勢数や統計値の公表事務作業等も、従来の方法を踏襲するか否かが長老会で継続協議となつています。教会財務に関しても、牧師が深く関わって計画に基づいて全ての出納が行われてきました。少子高齢化やクリスチャン人口の減少に伴い教会財政も一層厳しさが増す中、中長期的観点から注視していかねければなりません。

松谷先生にとってこの一年は牧会の初年度です。経堂北教会に馴染んでいただき、その中で長老会において様々な議論を行い、従来の牧会からどう変化するのか、踏襲すべきは踏襲し、簡略化すべきは簡略化し、新たに行うべきは行うべく、今後とも緊密に松谷先生を中心に協議を続けていきたいと思えます。

（大西 順）

個人消息



○北口泰子

6 月 18 日(水) に逝去されました。享年 90 歳。

掲示板



○図書の茶話会 7 月 6 日(日) 礼拝後

○西南支区教師会

7 月 14 日(月) 午後 5:30

於 代々木上原教会

○もより牧師会 研修会

7 月 28 日(月) 午後 1:00

於 祖師谷教会

編集後記



▽7 月号はご報告する事柄が少なく、また特集原稿を書いてくださる方も限られているため、4 頁での発行となりました。(酒井)

▽月 1 回、ああだこうだと議論する栄光編集の時間も豊かな恵みなのだと思う猛暑の昼下がりでした。(大友^麻)

▽暑いのは「へっちゃらな」私ですが、梅雨が短いのは作物には厳しいですね…。(澤田^寛)

▽ここ数年、夏があまりに長く厳しいせいか「不快指数」という言葉すら聞かなくなりましたね…。(原^由)

「栄 光」2025 年 7 月号

日本基督教団 経堂北教会

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-21-11

電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038

牧 師：松谷祐二

編 集：栄光編集委員会

Email：kyodon@nifty.com

HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

牧師の寄り道



6 月上旬、近隣の鷗友学園女子中学校の行事「山荘生活」に参加した。1 年生が、軽井沢にある山荘で行う泊りがけの合宿。内村鑑三の薫陶を受けた 2 代目校長・石川志づ女史が、米国で経験したバイブルキャンプに感動して始めたという。その中で、50 分の「聖書講話」を 2 度(同じ話を 2 クラスに)してほしい、という依頼を受け、軽井沢まで出張した。

終始生徒たちとは別行動だが、食事は同じ食堂で取るので、いくらか様子を観察できた。育ちのよさそうな、よくしゃべりよく笑う、輝くような生徒たちである。しかし、宗教に興味があるかは不明。聖書講話の直前、驚いたことに、この「山荘生活」を創始した故・石川志づ先生の肉声の録音が流された。生徒たちに向けて、浅間の山の自然の素晴らしさが語られ、創世記 1 章から神の天地創造が語られ、ぜひ自然を通して神を感じてほしい、と勧められていた。

実は私自身も、創世記から話をするつもりで準備していたので、この「石川講話」に半ばお株を奪われた形となった……が、しかし。私は創世記 1 章だけでなく、3 章まで、人が「善悪の知識の木」から取って食べ、楽園を追われてしまった所までを一息に話した。聖書は、昔話のような語り口を使いながら、この世界と人間の真実を告げる。神が極めて良く造られたのに、今や、神無しでも生きられるつもりになっている人間の悲惨を、リアルに描く。私たちはどう

したら神のもとに帰れるか。聖書の残り全部は、要するにこの問題への答えであり、イエス・キリストがその鍵なのだ、と話した。この合宿をきっかけに教会に来るようになった鷗友生は今の所いない。しかし、引率の先生が後日、生徒の感想の一部をお知らせくださった気がした。良い種まきの機会をくださった主に、感謝している次第である。(松谷祐二)